第78回 憲法を考える映画の会

琉球弧を戦場にするな

手元資料

●日時：2024年10月14日（月・休）
13：30～16：30
●会場：文京区民センター ３A会議室

●プログラム

13：30～13：40　この映画について説明
13：45～14：40　映画『琉球弧を戦場にするな』上映（55分）
14：50～15：50　藤本幸久監督のお話
※「お話」の中に『One Shot One Kill』からなどの追加映像上映を含みます。
15：50～16：30　トークシェア

■手元資料 目次

資料❶　映画『琉球弧を戦場にするな』について　P.2
資料❷　この映画を選んだ理由　P.3
資料❸　琉球弧の自衛隊基地　P.4
資料❹　対中国包囲網の最前線にされる琉球弧　P.6
資料❺　戦争の準備と琉球弧の基地年表　P.8～P.11
資料❻　解説【戦争が近づく琉球弧】　P.12
資料❼　琉球弧のいま、日米軍事同盟について考える映画　P.13~15
資料❽　第77回憲法を考える映画の会　報告　P.15
資料❾　第77回憲法を考える映画の会　参加者感想から　P.15
資料❿　憲法を考える映画の会 あとおいニュース　P.16

憲法を考える映画の会

〒185-0024
東京都国分寺市泉町3-5-6-303
TEL & FAX：042-406-0502
ホームページ：http://kenpou-eiga.com/
E-mail：hanasaki33@me.com

資料❶　映画『琉球弧を戦場にするな』について

【映画の解説】

台湾のすぐ東、与那国島から、石垣島、宮古島、沖縄島、奄美群島、屋久島、種子島、馬毛島までの琉球弧がアメリカのための戦争基地とされ、戦争を回避する外交ではなく、戦争をするための戦争を想定した、島々を戦場にする準備が進んでいる。

戦争の危機が迫れば島に暮らす人々は島外避難をさせられる。核兵器が存在し、大量の航空機やミサイル、それにドローンが飛び交う現代の戦争においてまったく非現実的な対上陸作戦などの「実践演習」まで行っている。

それは、危機をあおり、アメリカという軍産複合国家を維持するためのイデオロギー攻撃に他ならない。日本政府はアメリカの圧力に屈し国会討議も行わずいきなり防衛費のGDP２％予算化を実現した。島に住む人びとは生存権をかけて闘い続けている。（ウエッブ･アフガン「世界の声」『琉球弧を戦場にするな』解説より）

【この映画の制作して】

私たちが沖縄で撮影を始めたのは2004年。 辺野古では、住民たちがカヌーと身体一つで米海兵隊の新基地建設のための作業を必死に止め続けていました。

20年後の今、辺野古の新基地はできないまま。しかし、九州の南から台湾にかけて弓なりに連なる琉球弧の島々は、 自衛隊の基地だらけとなりました。

2016年に与那国島に陸上自衛隊のレーダー基地がつくられ、 沿岸監視部隊が配備されました。 19年には宮古島と奄美大島に、 23年には石垣島にミサイル基地がつくられました。 沖縄島にもミサイル部隊が配備されました。 すでに基地のある島々も、 基地の拡大が止まりません。 台風から島を守る貴重な湿地やリーフを浚渫し、自衛隊や海上保安庁が自由に使える巨大な港をつくる計画も進められようとしています。

日米共同の軍事演習は絶え間なく続けられ、 野戦病院の設置や負傷者の搬送の訓練も行われています。 訓練には遺体の仮埋葬もあり、宮古島の公共施設には遺体の収容袋が設置されています。 地図で島々の場所を見てみてください。 仮想敵国・中国に対する最前線基地を琉球弧に構築するという戦争準備、 戦争計画の形がくっきりと浮かび上がります。 計画されている次の戦争は、 日本の国土を戦場に、核保有国・中国と対峙する戦争。 その主戦場が琉球弧なのです。 与那国町では有事の際、住民に避難費用を支給する条例が2022年に議会で可決されました。 糸数健一与那国町長が、その記者会見で「各自でなんとか生き延びてくれ」と語ったのは衝撃的でした。

島々の軍事化の様相も、住民の危機感も、休みなく続く日米の軍事演習も大手メディアは伝えません。 伝えないなら、私たちがやるしかありません。

ドキュメンタリー映画監督 影山あさ子

【製作スタッフ】

監督：藤本幸久 ・ 影山あさ子
撮影：中井信介
製作・著作：森の映画社
2024年5月制作／55分／ドキュメンタリー

【映画の構成】

① 奄美大島（2019年3月陸上自衛隊奄美駐屯開設記念行事）
② 琉球弧の軍事基地（地図とドローン空撮映像）
③ 宮古島 弾薬搬入の日（2021年6月2日）
④ 宮古島ミサイル搬入の日（2021年11月14日）
⑤ 石垣島ミサイル搬入の日 石垣港（2023年3月18日）
⑥ 米海兵隊第12海兵沿岸連隊発足式
⑦ 日米共同訓練李ゾリュート･ドラゴン23への抵抗
⑧ 陸上自衛隊日出生台演習場での日米共同訓練
⑨ 自衛隊統合演習（徳之島）
⑩ 神奈川県川崎市新百合ヶ丘総合病院での訓練
⑪ 宮古島駐屯地開設5周年記念行事の日
⑫ 沖縄島への地対艦ミサイル部隊配備に対する抵抗
⑬ 沖縄島･第7地対艦ミサイル連隊発足式典
⑭ 住民避難･与那国島
⑮ 那覇市の住民避難訓練
⑯ エマニュエル駐日米国大使の与那国島訪問
⑰ 宮古島･保良訓練場内での訓練

【DVDの購入及び上映の問合せ】

森の映画社札幌編集室
・morinoeigasha@gmail.com
・電話・FAX: 011-206-4570
・〒004-0004　北海道札幌市厚別東４条８丁目17-12 2階
・DVD定価：10000円（上映権付き）
・映画ブックレット（採録シナリオ付き）：1000円

資料❷　映画『琉球弧を戦場にするな』この映画を選んだ理由

【この映画を選んだ理由】

南西諸島（琉球弧）の島々で、今、何が進められているのか、そしてそれらが、私たちを戦争の危険に引きずりこんでいくものだと言うことを、きちんと把握していかなければならないと、ずっと思い続けていました。

この映画の監督の藤本幸久さんと影山あさ子さんは、2004年、辺野古の基地建設に反対して闘う人々を撮影して以来、20年にわたって沖縄島や南西諸島で進められてきた「戦争の準備」をドキュメンタリー映画として制作してきました。

今回の映画ではとくに、これからのここで繰り広げられようとしている実質的な「戦争の危険」を見つめていると思います。米軍や自衛隊、米大使、防衛省の高官の談話やインタビューによって、彼らがどのように「戦争の準備」を進めているか、そのねらいはどのようなものなのかを問い明かそうとしています。

藤本さんは「辺野古を止めれば、戦争を止めることができると思っていた。20年たっても辺野古の基地はできていないが、戦争の準備は琉球弧全体に広がって、どんどん進められていっている」とお話をされていました。

2015年の安保法制（集団的自衛権の容認）によって、軍備の増強、とくにアメリカと一体になった軍備の拡張（敵基地攻撃能力を持った機器配備など）によって戦争の危機は広がっています。自衛隊はすでにアメリカ軍の指揮下に置かれ、その指揮の下に有無を言わせず戦争を行う体制に組み込まれています。それを具体的にする共同演習や合同訓練がくり返されています。

私たちは、まず映画を見て、①**今、南西諸島で繰り広げられている基地建設と戦争の準備の実態を知りたい**と思います。そして②**「戦争をする国」をつくるための政策や法制化はどのように進められてきたか**、それを③**「中国封じ込め戦略」や「日米共同軍事行動」**によって、どのように実行しようとしているのか、さらに、④こうした戦争に向かおうとしている状況を**どうしてメディアは取りあげないのか**、戦争を煽るような報道を続けるのかを考えたいと思います。

アメリカは第二次大戦後、10年に一度は戦争をやってきた国です。その多くがアメリカがきっかけを作ったとされている戦争です。そうした戦争に今、自衛隊が先頭に立って戦争を起こしていく役割を担おうとしています。

藤本さんたちの作品に『**One Shot One Kill**』（2011年）と言う作品があります。アメリカの海兵隊の新兵訓練所）の訓練に密着した衝撃作です。そのアメリカの兵士の代わりに日本の若者が戦って、殺し合い、死んでいく戦争がそこまで来ています。

戦争はまた、兵士だけが殺し合うものではなく、全住民、全市民が巻き込まれるものです。それを今、止めなくて、いつ止めるのか。私たちの政府は、その声を聞こうともせずに戦争の道を着々と進めています。

「自衛隊のみなさん、アメリカのために戦争をしないでください」。沖縄島うるま市陸上自衛隊勝連分屯地前で自衛隊車輌を止める運動に声をあげていた具志堅隆松さんの声が、ずっと耳に残ります。

【DVD購入・上映会のご案内】

DVD『琉球弧を戦場にするな』
上映時間：55分（2024年5月完成）
定価：10000円（上映権付き）
※　DVDは上映権付きです。
ご購入いただければ、有料でも、無料でも、何度でも自由に上映できます。
但し、他の個人、団体へ貸し出しての上映や複製はできません。

戦争を止めるのは今。
ぜひ、みなさんが
伝える人になってください!

【「ブックレット琉球弧を戦場にするな」のご案内】

ブックレット
定価1000円
ブックレット「琉球弧を戦場にするな」には、この映画の採録シナリオと【戦争が近づく琉球弧】の解説が掲載されていて、映画の内容についてさらに理解を深めるのに役立ちます。
この「手元資料」でも琉球弧の「地図」「年表」「解説」で一部引用させていただいております。
是非是非お買い求めください。会場で販売しております。

DVD/ブックレットの申込み

申込み･連絡先：森の映画社札幌編集室
TEL&FAX:011-206-4570
Mail：morinoeigasya@gmail.com
〒004−0004　札幌市厚別区厚別東4条8丁目17−12

資料❸　琉球弧の自衛隊基地

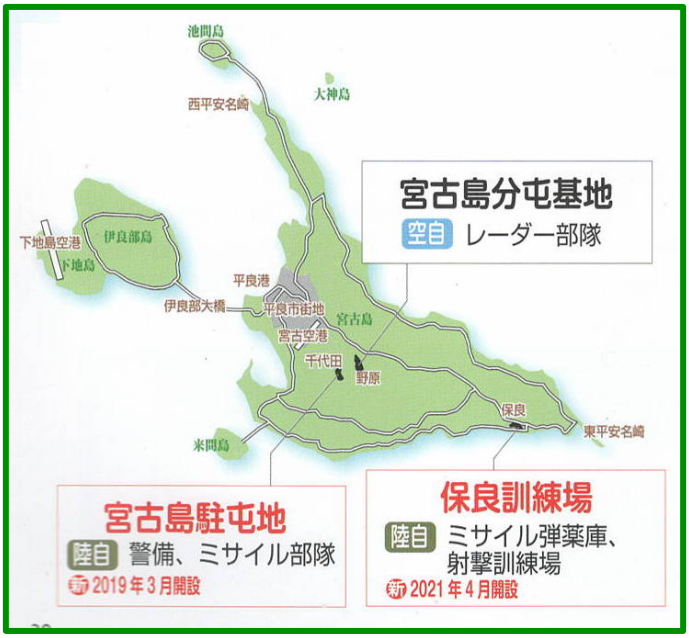
与那国島	陸上自衛隊与那国駐屯地
2016年3月	開設 沿岸監視部隊（約160人）
2024年3月	増強 電子線部隊（約40人）
将来	増強地対艦ミサイル部隊

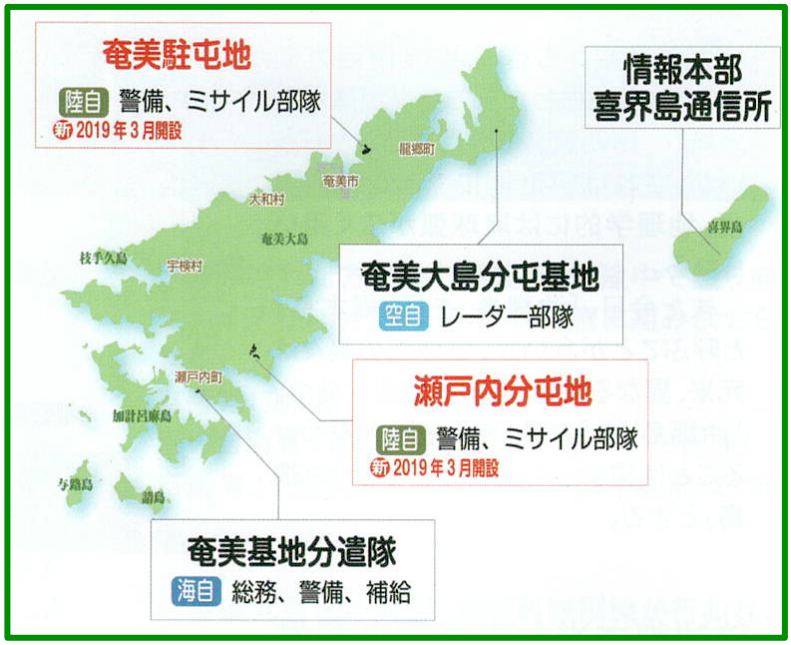
馬毛島	自衛隊馬毛島基地（仮称）
将来 開設（工事中）	米軍空母艦載機の離着陸訓練
	陸海空の自衛隊の各種訓練場
	及び事前集積拠点（2024年度
	先遣隊約90名）

石垣島	陸上自衛隊石垣駐屯地
2023年3月	開設 警備部隊（約180人）
	開設 地対空ミサイル部隊
	開設 地対艦ミサイル部隊
将来	増強 電子線部隊（2026年～27年度）
	増強 用地を1.5倍に拡大し訓練施設建設

※←3～4ページの地図は森の映画社「ブックレット『琉球弧を戦場にするな』」より転載させていただきました

資料❸　琉球弧の自衛隊基地





宮古島　　陸上自衛隊宮古島駐屯地
2019年3月 開設 警備部隊（約380人）
2020年3月 増強 地対空ミサイル部隊（約180人）
　　増強 地対艦ミサイル部隊（約60人）
　　増強 警備部隊の増員（約100人）
2021年4月 増強 保良訓練場開設
　　増強 ミサイル弾薬庫 射撃訓練場
将来　　増強 電子線部隊（約50名 2024年度配備予定）

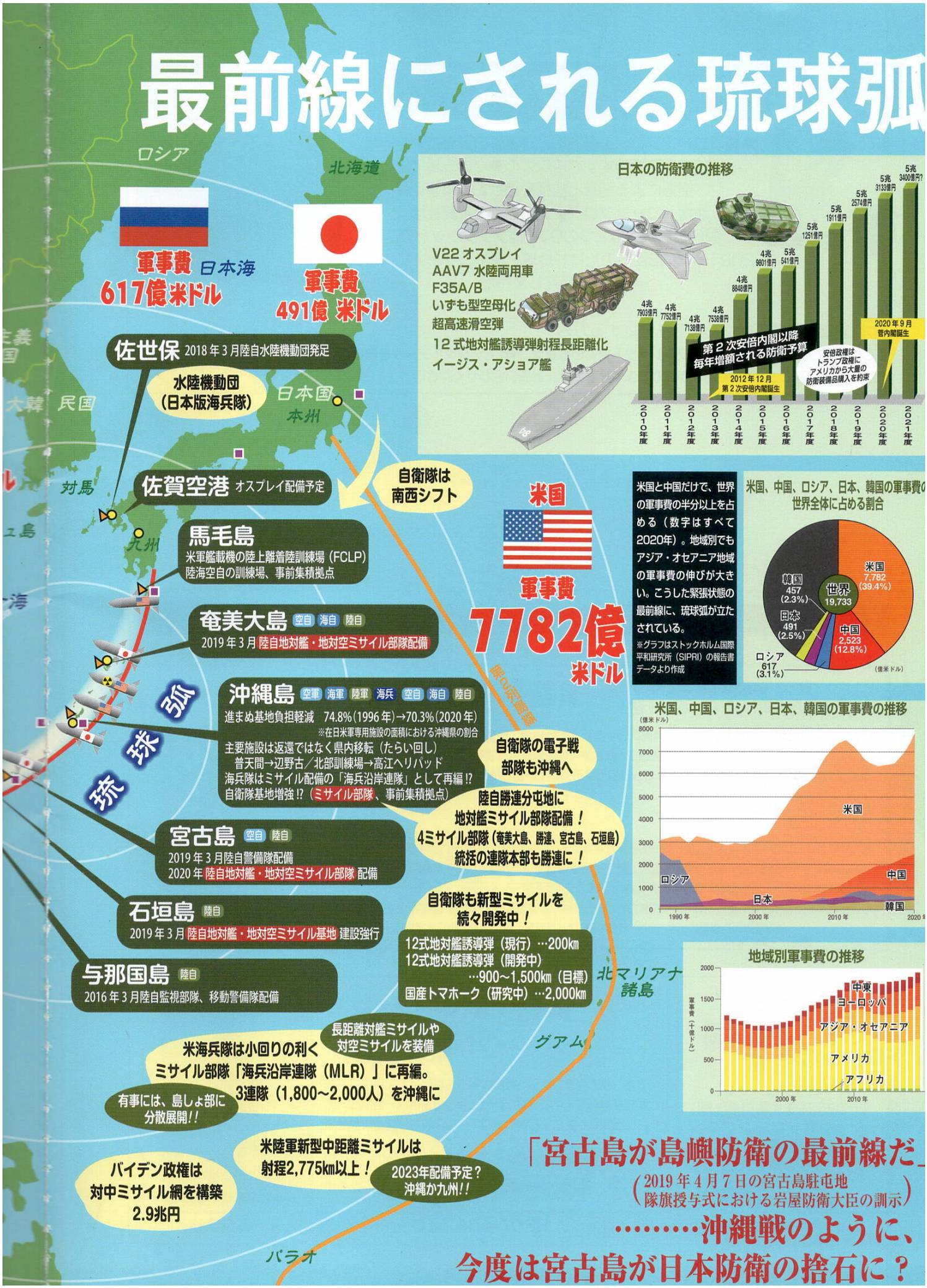
奄美大島　　陸上自衛隊奄美駐屯地・瀬戸内分屯地
2019年3月 開設 警備部隊（合計560名）
　　地対空ミサイル部隊
　　地対艦ミサイル部隊

徳之島
2023年11月 日米共同演習 自衛隊統合演習

伊江島補助飛行場
海兵 演習場
トリイ通信施設
陸軍 第10支援群
第1特殊部隊群（空挺）
第1大隊（グリーンベレー）
嘉手納飛行場
空軍 第18航空団
第353特殊作戦群
海軍 沖縄艦隊基地隊
（対潜哨戒機等）
陸軍 第1防空砲兵大隊第1大隊
（パトリオットミサイル）
嘉手納弾薬庫地区
陸軍はパトリオットミサイルを配備
白川分屯地
陸軍 中距離地対空ミサイル部隊
陸軍分屯基地
陸軍 パトリオットミサイル部隊
キャンプ・シールズ
海軍 海軍特殊大隊
陸軍 住宅
キャンプ瑞慶覧（キャンプ・フォスター）
海兵 米海兵隊太平洋基地司令部
第1海兵航空団司令部
キャンプ桑江
陸軍 住宅
普天間飛行場
海兵 第36海兵航空群
（オスプレイ、CH-53ヘリ等）
牧港補給地区（キャンプ・キンザー）
海兵 第3海兵兵站群司令部
極東随一の総合補給基地
那覇港湾施設
那覇訓練場
那覇駐屯地野戦宿舎
那覇駐屯地阿波根宿舎
那覇基地
空自・海自の航空隊
陸自の飛行隊
那覇高射教育訓練場
パトリオットミサイル部隊
那覇駐屯地
第15旅団本部
与座分屯基地
レーダー基地
南与座分屯地
短距離地対空ミサイル部隊
八重瀬分屯地
ミサイル部隊 本部
知念分屯基地
パトリオットミサイル部隊
知念分屯地
中距離地対空ミサイル部隊
勝連分屯地
中距離地対空ミサイル部隊
津堅島訓練場
演習場
キャンプ・マクトリアス
陸軍 住宅
泡瀬通信施設
陸軍 通信
沖縄基地隊
陸軍隊、水中処分隊
貝志川送信所
陸軍 通信
金武レッド・ビーチ訓練場
陸軍 演習場
金武ブルー・ビーチ訓練場
陸軍 演習場
天願桟橋
陸軍 港湾
沖縄訓練場
陸軍 演習場
辺野古弾薬庫
陸軍
辺野古新基地
海兵 飛行場、港湾など
2014年7月着工、完成は10年後？
キャンプ・シュワブ
海兵 第4海兵連隊（歩兵）
＊山岳部は演習場
キャンプ・ハンセン
海兵 第12海兵連隊（砲兵）
第31海兵遠征部隊司令部
＊山岳部は演習場
キャンプ・コートニー
海兵 第3海兵遠征軍司令部
第3海兵師団司令部
第3海兵遠征旅団司令部
浮原島訓練場
陸軍 米軍と自衛隊が共用使用
ホワイト・ビーチ地区
海軍 港湾施設 陸軍 貯油施設
原子力潜水艦、強襲揚陸艦の寄港・補給基地。港湾の一部は自衛隊と共用使用
米軍基地、自衛隊基地
米軍への提供水域・空域
八重岳通信所
陸軍 通信
奥間レストセンター
陸軍 情報部隊
国頭受信所
海自 P3C受信所
北部訓練場
海兵 演習場
高江
海兵 オスプレイヘリパッド
陸軍分屯地
陸軍 パトリオットミサイル部隊
陸軍 住宅
陸軍 住宅
陸軍 住宅

資料❹　対中国包囲網の最前線にされる琉球弧

資料❹　対中国包囲網の最前線にされる琉球弧



※←森の映画社「ドローンの眼2 戦争と平和の最前線」より転載させていただきました。

資料❺　戦争の準備と琉球弧の基地 (1)

戦争の準備（政策･法制･米軍との関係）(1)	政治･社会の動き　(1)	沖縄島（辺野古）(1)	沖縄島（高江・浦添など）(1)
1978年　「日米防衛協力のための指針」了承		1945年6月　大浦先収容所設営（伊江村、今帰仁村、本部町から約25000人収容） 1955年7月　キャンプ・シュワブ用地接収開始 1956年11月　キャンプ・シュワブ使用開始	1957年10月　（高江）「北部海兵隊訓練場」として使用開始 1974年1月　（浦添）日米2プラス2で、那覇軍港の移設条件付き全面返還決定
1993年　朝鮮半島危機 1996年　台湾海峡危機 【アメリカ、新たな脅威模索・地域紛争戦略】 【日本により多くの軍事的･経済的負担を】 「台頭する中国」対中包囲戦略 1996年4月　**日米安保共同宣言**「21世紀に向けての同盟」（安保適用範囲が「極東」から「アジア太平洋地域へ」に拡大 【安保再定義】 1995年　**防衛大綱「基盤的防衛力構想」**（19年ぶりの改定） 1997年9月　**日米ガイドライン**改定（「軍事同盟」として強化→対中国封じ込め態勢へ 1999年5月　**「周辺事態法」他ガイドライン法制**（地理的条件の撤廃へ。周辺事態における様々な分野での日米協力と地方自治体･企業･国民の協力体制へ	1991年　湾岸戦争 1991年11月　宮沢喜一内閣 1992年6月　PKO法案強行採決 1995年9月　**米海兵隊員らによる少女暴行事件** 1995年10月　少女暴行事件に抗議する県民総決起集会85000人 1996年1月　橋本龍太郎内閣	1996年4月　橋本首相とモンデール駐日大使普天間代替基地建設条件に5～7年以内返還合意 1996年12月　日米特別行動委員会（SACO)「沖縄本島東海岸沖建設」最終報告発表 1997年11月　政府が辺野古沖海上ヘリポート案 1997年12月　名護市住民投票、普天間移設反対多数（反対が53%） 1997年12月　比嘉名護市長、建設受け入れ辞職 1998年2月　太田知事建設受け入れ（海上ヘリポート）拒否 1998年2月　東町後継の岸本名護市長当選 1998年11月　知事選で「軍民共用」「15年期限」公約の稲嶺知事誕生 1999年11月　稲嶺沖縄県知事が名護市辺野古沿岸域を建設地に選定 1999年12月　岸本名護市長受入れ表明 1999年12月　普天間移設に係る政府方針閣議決定	1995年5月　（浦添）日米合同会議で、那覇軍港の移転先を浦添埠頭内に決定 1996年12月　（高江）SACO最終報告で、ヘリパット新設が北部訓練場過半数の返還条件に 1996年12月　（浦添）SACO最終報告で合意 1999年～2000年　（高江）沖縄生物学会、日本鳥学会等数多くの自然保護団体がヘリパット計画に反対や見直しを求める決議 1999年4月　（高江）日米合同委員会でヘリパット6箇所と進入路等整備で合意 1999年10月　（高江）高江区民葬会「ヘリパット移設受け入れ反対」決議
2000年　陸自教範「野外令」改訂「島嶼防衛作戦」を初めて明記＝「南西シフト」の始まり 2003年～2004年　**有事法制**（武力攻撃事態法」「自衛隊法改定」「国民保護法」「捕虜取扱法」「米軍行動円滑化法」「特定公共施設利用法」他 2004年　防衛大綱（基盤的防衛力構想　」からの脱却。脅威の名指し始まる「島嶼部に対する進行への対応として「部隊を機動的に輸送･展開」 2007年　「防衛庁→防衛省」	2000年4月　森喜朗内閣 2001年4月　小泉純一郎内閣 2001年9月　**アメリカ同時多発テロ事件**（911テロ） 2001年　アフガン戦争 2004年8月　**沖縄国際大学に米軍ヘリ墜落** 2006年9月　安倍晋三内閣 2007年9月　福田康夫内閣 2008年9月　麻生太郎内閣 2009年8月　民主党政権・鳩山由紀夫内閣	2002年2月　岸本名護市長再選 2002年11月　辺野古沖移設容認の稲嶺知事再選 2004年4月　辺野古ボーリング調査に反対する座り込み開始 2005年9月　ボーリング用のヤグラ撤去 2006年1月　岸本市長後継の島袋名護市長当選 2006年5月　米軍再編ロードマップ合意 2006年5月　辺野古沿岸部埋め立て　2本滑走路建設 2006年11月　県内移設柔軟姿勢の中井真知事誕生 2007年5月　安倍首相、アクセス事前調査で海自掃海母艦を辺野古に派遣 2007年８月　アクセス手続き開始 2008年7月　沖縄県議会、辺野古新基地建設撤回決議 2009年7月　鳩山民主党代表が総選挙前に「最低でも県外」発言	2001年11月　（浦添）儀間浦添市長が受け入れを表明 2003年1月　（浦添）建設協議会（国、県、那覇市、浦添市）が現行計画了承 2006年2月　（高江）高江区民総会、2度目の「ヘリパット建設反対」決議 2006年3月　（高江）東村議会が建設地移動を要求する決議 2006年5月　（浦添）キンザーを含む米軍嘉手納飛行場以南6施設の返還に日米が合意 2007年7月　（高江）ヘリパット工事着手、住民の座り込み始まる
2010年頃　それまで停滞していたアメリカの対中包囲戦略と自衛隊の南西シフト体制づくりが連動して本格化。日米共同訓練も活発化、大規模化していく。 同時期尖閣沖漁船衝突事故～尖閣3島国有化を機に日本国内で中国脅威論高まる 2010年防衛大綱「動的防衛力」（空白地帯＝島嶼部の防衛強化、迅速な機動展開「実効的な抑止及び対処」の登場	2010年6月　菅直人内閣 2011年3月　**東日本大震災** 2011年9月　野田佳彦内閣	2010年1月　基地反対の稲嶺名護市長誕生 2010年4月　普天間県外移設求める県民大会約90000万人県内全市町村長参加 2010年5月　鳩山内閣、県外移設断念 2010年　陸上自衛隊混成団を第15旅団に昇格 2010年11月　県外移設を掲げた中井真知事再選	2010年及び2014年　（高江）大宜味村議会、北部訓練場の無条件返還を求める意見書を2度可決

資料❺　戦争の準備と琉球弧の基地 ⑵

石垣島・与那国島	宮古島	奄美大島	徳之島・馬化島
1944年　日本軍約1万人が駐留 1945年　日本軍によるマラリア蔓延地域への強制移住により3647人の犠牲者を出す。 1950年代　沖縄各地から石垣島に開拓移民（沖縄島で米軍基地に農地を奪われた人も）	1944年　旧日本軍先島集団司令部展開（陸軍28000人、海軍2000人） 1945年　終戦後、米軍レーダー設置 1972年10月　平良海上保安署開設 1972年12月　空自宮古島分屯基地発足 1979年7月　下地島空港供用開始	1962年2月　海上自衛隊奄美基地分遣隊、佐世保防備隊隷下で新編 1975年10月　航空自衛隊奄美大島分屯基地開設	
2014年4月　与那国島久部良･祖内地区で陸上自衛隊基地建設着工 2015年～2016年　石垣島、宮古島、久米島、沖縄島、種子島に準天頂衛星システム管制局設置（ミサイル誘導目的） 2015年11月　防衛省が中山義隆石垣市長に陸自配備を打診 2016年3月　（与那国島）**陸上自衛隊与那国駐屯地沿岸監視部隊開設**（約150人） 2017年5月　防衛省が配置案を提示 2018年3月　中山市長が3選 2018年12月　陸自配備の賛否を問う住民投票を求める署名1万4000筆超 2019年2月　市議会が住民投票条例案を議長裁決で否決 2019年3月　石垣島平得大俣地区に陸上自衛隊基地建設着工・民有地の工事着手 2019年9月　陸自配備の賛否を問う住民投票実施義務づけを求めて住民が提訴	2005年3月伊良部町議会が下地島空港への自衛隊誘致決議。町民約3500人（町民の半数）が反対し決議撤回させる 2010年～　航空自衛隊で新型レーダーの新設、換装 2014年6月　防衛省が宮古島市長へ陸自基地配備候補地選定協力要請 2015年～2016年　宮古島、石垣島、久米島、沖縄島、種子島に準天頂衛星システム管制局設置（ミサイル誘導目的） 2015年6月　防衛省が宮古島への陸自基地配備候補地を提示 2016年6月　下地敏彦市長、陸上自衛隊基地受け入れ表明 2017年1月　宮古島市長選挙で陸自基地賛成派の現職の下地敏彦氏当選 2017年11月　宮古島千代田地区に陸上自衛隊宮古島駐屯地着工 2018年1月　防衛省が保良に弾薬庫配備を伝達 2019年3月26日　**宮古島駐屯地開設**（宮古警備隊発足）700名 2019年10月　保良訓練場（弾薬庫）着工	2005年10月　瀬戸内町の議員連盟が海上自衛隊の強化を求める要請 2014年5月　武田良太防衛副大臣、奄美市を訪問 2014年6月　小野寺防衛大臣、奄美市を訪問 2014年6月　奄美市議会「奄美市への陸上自衛隊配備を求める意見書」について採択 2014年7月　「陸自駐屯地を誘致する要望書」を武田良太防衛副大臣へ提出 2014年8月　奄美市長、瀬戸内町長が陸自受入れを受諾 2016年6月　防衛省による基地説明会実施 2016年6月　大熊･節子地区で陸上自衛隊基地建設着工 2018年10月　陸上自衛隊西武方面隊による大規模実動演習 2019年3月　**陸上自衛隊奄美駐屯地、瀬戸内分屯地開設**（駐屯地開設記念行事＝映画シーン1） 2019年9月　陸上自衛隊と米陸軍による合同実動訓練「オリエント･シールド19」 2019年11月　陸上自衛隊の大規模演習「鎮西演習」「対空戦闘訓練」「協同転地演習」など	2007年　（馬化島）空母離着陸訓練施設（FCLP）として浮上 2010年　（馬化島）自衛隊が事前集積拠点として使用計画 2011年　（馬化島）FCLPの移転先として検討を日米2プラス2文書に明記　基地計画の日米合意 2011年～16年（馬化島）西之表市等各自治体、議会による反対決議 2015年～2016年　種子島、宮古島、石垣島、久米島、沖縄島に準天頂衛星システム管制局設置（ミサイル誘導目的） 2017年3月　（馬化島）西之表市長選挙により受け入れ反対の八板氏当選 2018年7月（馬化島）海上、航空自衛隊の訓練、集積拠点として活用と報道 2019年11月（馬化島）防衛省と地権者（タストン社）が160億円（評価額の3倍）で買収に合意
2020年3月　（石垣島）私有地売却を市議会本会議で採決 2020年4月　航空自衛隊与那国駐屯地に移動警戒隊配備 2020年8月　（石垣島）陸自配備の賛否を問う住民投票実施義務づけを求める訴訟の一審で住民側敗訴。2021年3月に控訴棄却、8月に上告が棄却され、住民側敗訴確定 2022年11月17日　（与那国島）与那国空港に自衛隊戦車輸送機、戦車を運び、公道を走行し与那国分屯地へ運び込まれた（映画：シーン14） 2022年11月30日　（与那国島）与那国町役場**避難訓練** 映画：シーン14）与那国市長：「どうしようもない状況下になった場合は、拡張民に給付金を振り込んで各自で何とか生き延びてくれ。とにかく島を脱出してくれ」 2023年3月16日　（石垣島）**陸上自衛隊石垣駐屯地開設（**警備部隊、地対空ミサイル部隊、地対艦ミサイル部隊、合計約570人） 2024年3月18日　石垣島石垣港**ミサイル搬入**（映画：シーン５） 2024年3月　（与那国島）**陸上自衛隊与那国駐屯地電子戦部隊増強**（約40人） 2024年5月17日　（与那国島）エマニュエル駐日米国大使の与那国島訪問（映画：シーン16）	2020年3月　宮古島駐屯地にミサイル部隊（地対艦ミサイル部隊･地対空ミサイル部隊）発足 2020年10月　宮古島陸上自衛隊保良地区に弾薬庫基地建設着工 2021年1月　宮古島市長選挙で現職を破り座喜味和之氏当選 2021年4月　**保良訓練場（弾薬庫）供用開始** 2021年5月　下地利彦前宮古島市長、収賄容疑で逮捕 2021年6月2日　**宮古島弾薬搬入**（映画：シーン3） 2021年11月14日　**宮古島ミサイル搬入**（映画：シーン４） 2024年2月18日　宮古島駐屯地開設5周年記念行事（映画：シーン11）	2021年頃　奄美大島湯湾岳に通信施設開設 2021年4月　貴志信夫防衛大臣が奄美大島の自衛隊施設を視察 2021年6月末～7月　日米共同訓練「オリエントシールド21」 2022年3月　**陸上自衛隊奄美駐屯地・瀬戸内分屯地電磁宣撫隊、業務隊**など増強（約70人）	2020年8月（馬化島）山本防衛副大臣来島、自衛隊は一案と土地買収99%完了を報告 2020年12月（馬化島）防衛省、海上ボーリング調査を開始 2021年1月（馬化島）西之表市長選挙 2021年2月（馬化島）防衛省、環境影響評価の手続きを開始 2021年6月（馬化島）騒音調査のため自衛隊のF15がデモ飛行 2023年1月「馬化島基地」建設着工 2023年11月10日～20日（徳之島）**日米共同演習　自衛隊統合演習**　陸･海･空の自衛官30000人、米軍10000人が参加（映画：シーン９）

資料❺　戦争の準備と琉球弧の基地 ⑶　2010年代

戦争の準備（政策･法制・米軍との関係）⑵	政治･社会の動き　⑵	沖縄島（辺野古）⑵	沖縄島（高江・浦添など）⑵
2012年　統幕文書「日米の動的防衛協力について（対中国の日米共同作戦、沖縄の全米軍基地の日米共同使用などミサイル部隊は事前配備ではなく有事の展開を想定 2012年9月　尖閣列島国有化（野田政権） 2013年防衛大綱「統合機動防衛力」あからさまな中国脅威論の一方「日米同盟」を「公共財」と賛美。島嶼奪回･水陸両用作戦そして南西諸島への新部隊配備を決定 2013年12月　**特定秘密保護法**強行採決（2014年12月施行） 2014年5月15日　**安倍首相集団的自衛権の行使を表明** 2014年7月　国家安全保障会議及び閣議において、「国の存立を全うし、国民を守るための切れ目のない安全保障法制の整備について」を決定	2012年11月　衆議院解散（自爆解散）衆議院選挙自公勝利し政権交代　**第二次安倍内閣発足**（地獄の安倍8年の開始） 2013年2月　アベノミクス発表 2013年3月　生活保護費引き下げ 2013年4月　安倍軍拡予算スタート 2013年7月　参議院選挙自公勝利 2013年8月　内閣法制局長官の人事を閣議決定（憲法解釈の変更） 2013年12月　**国家安全保障会議**発足　**特定秘密保護法**成立　安倍首相靖国参拝 2014年4月　消費税5%→８%引き上げ　**防衛装備移転3原則･原発推進**閣議決定 2014年5月　内閣人事局設置 2014年7月　**集団的自衛権行使容認**閣議決定 2014年12月　衆議院選挙自公圧勝三分の二確保	2012年7月　浜の座り込み3000日 2012年9月　普天間オスプレイ配備反対県民大会100000人余 2012年10月　普天間にオスプレイ配備 2012年12月　自由民主党政権復帰　第2次安倍内閣誕生 2013年1月　41市町村長が建白書（普天間閉鎖、県内移設断念、オスプレイ配備撤回）で直訴 2013年12月　中井真知事辺野古埋め立て承認（普天間5年以内運用停止条件） 2014年1月　稲嶺名護市長再選 2014年7月　辺野古工事着工 2014年7月　キャンピシュワブゲート前座り込み開始 2014年8月　沖縄防衛局ボーリング調査開始 2014年11月　辺野古移設反対の翁長知事誕生 2014年12月　衆議院小選挙区全4区で辺野古反対のオール沖縄候補勝利	2012年5月　「沖縄復帰40周年記念式典」 2012年9月　オスプレイ配備反対県民大会に10万人 2012年10月　（高江）**沖縄にオスプレイ配備** 2012年10月　米兵による集団女性暴行致死傷事件発生 2013年1月　王朝白髪オスプレイ配備反対･普天間返還の「沖縄建白書」を安倍首相に手渡す 2013年2月　（浦添）「移設反対」公約で松本市長当選 2013年2月　（浦添）キャンプキンザーの2025年以降の全面返還決定 2013年12月　仲井間知事が辺野古新基地埋め立てを承認･安倍首相は沖縄振興予算増額を約束 2014年7月　（高江）N4地区の二つのヘリパットが完成、工事一時中断 2014年8月　辺野古埋め立て反対県民抗議集会に3600人 2014年　知事選挙でオール沖縄翁長氏が圧勝、辺野古埋め立て承認を取り消し 2015年4月　（浦添）松本市長が「移設反対」の公約撤回、容認
2015年9月19日　参院で**安全保障関連法案**（戦争法案）強行採決。 政府は憲法解釈を変更して集団的自衛権の行使を認め、有事の際の外国軍隊との協力を法律に盛り込んだ。 2015年　防衛白書「南西諸島自衛隊配備計画は「陸自創設以来の大改革」 2016年　安倍政権「インド太平洋戦略」提唱 2016年4月「友人国境離島法」成立「離党機能」という軍の論理 2016年4月　ドローン規制法（小型無人機等規制法）施行 2017年6月15日　**共謀罪法**（共謀罪の創設を含む改正組織的犯罪処罰法）強行採決（同7月11日施行） 2018年　防衛大綱「多次元横断的防衛力構想」（クロスドメイン）空母の保有、島嶼防衛用高速滑空弾部隊の保有ほか、無制限の大軍拡と南西シフトの多次元的拡大へ　**「自由で開かれたインド太平洋」** 2018年3月　佐世保水陸機動団発足　朝霞陸上総隊発足 2019年3月　佐世保「崎辺分屯地」開設 2019年6月　改正ドローン規制法（小型無人機等規制法の一部を改正する法律）施行	2015年　**「日米防衛協力のための指針」改定** 2015年5月　高市総務省「放送法に違反は免許停止もありうる（メディア統制･威嚇を画策） 2015年5月　安全保障閣議決定閣議決定（集団的自衛権行使） 2015年9月　**安全保障関連法成立** 2016年3月　**安全保障関連法**施行 2016年7月　参議院選挙自公圧勝三分の二確保 2016年10月　**南スーダンPKO「駆け付け警護」**閣議決定 2017年5月　初めて海自護衛官が米艦艇を防護 2017年6月　**「共謀罪法」**成立（現代の治安維持法） 2017年7月　国連で核兵器禁止条約が可決 2017年10月　衆議院選挙自公圧勝　**イージスアショア導入**閣議決定 2018年12月　**防衛計画の大綱・中期防衛力整備計画**を閣議決定 2019年7月　参議院選挙で自公勝利　消費税８%→10%に引き上げ	2015年～2016年　沖縄島、久米島、石垣島、宮古島、種子島に準天頂衛星システム管制局設置（ミサイル誘導目的） 2015年10月　翁長知事埋め立て承認取り消し、国と法廷闘争へ 2016年11月　最高裁で県側敗訴 2016年12月　**普天間所属大型ヘリ東村に墜落** 2017年　航空自衛隊第83航空団を第9航空団に昇格。航空自衛隊混成団を南西航空方面隊に昇格 2017年7月　沖縄県が国に対して工事違法差し止め求める 2017年11月　辺野古埋め立て領域に活断層の存在指摘 2017年12月　**普天間所属大型ヘリ普天間第二小学校に部品落下** 2018年2月　移設容認の渡具知名護市長誕生 2018年3月　辺野古埋め立て領域に軟弱地盤の存在指摘 2018年8月　翁長知事死去 2018年9月　翁長知事の遺志をつぐ玉城知事誕生 2018年12月　沖縄県の反対を無視して辺野古浅瀬の土砂投入開始	2015年6月　（高江）東村議会、オスプレイ飛行禁止とヘリパット撤去を求める決議 2015年11月　東京日比谷で辺野古反対集会4500人 2016年6月　県議会選挙･県政与党が勝利（27議席） 2016年7月　（高江）沖縄県議会、ヘリパット建設に反対し建設中止を求める意見書を採択 2016年7月　（高江）反対する住民を強制排除し、工事再開。機動隊約800人 2016年10月　（高江）沖縄平和運動sンター山城博治議長ら逮捕･勾留（5ヶ月後の翌年3月に保釈） 2016年12月　（高江）残り4箇所のヘリパット完成、北部訓練場の過半返還 2016年12月　（浦添）翁長知事が浦添移設容認の考えを示す 2017年1月　翁長知事が渡米し辺野古･基地問題訴え 2017年2月　（浦添）松本市長が「南側案」公約で再選 2018年8月　翁長知事逝去 2018年9月　知事選挙で玉城デニー氏が圧勝

資料❺　戦争の準備と琉球弧の基地 ⑷　2020年代

戦争の準備（政策・法制・米軍との関係）⑶

2021年～2022年　米国のインド太平洋戦略本格化～台湾有事キャンペーン～南西シフト第2段階へ
2021年1月　米議会でインド太平洋に特化した基金PDI（太平洋抑止イニシアティブなど）米軍は軍事戦略の軸足をインド太平洋地域へ
2021年3月　デービッドソン（インド太平洋軍司令官）の証言「中国が台湾に侵攻する可能性」以来日米の台湾有事キャンペーンは本格化。中国や琉球弧周辺での日米＋多国間の軍事演習が激化していく

2021年4月　日米共同声明で「台湾」に初めて言及。1970年以来の「一つの中国」論から転換した。
2021年6月16日　**土地規制法（重要施設等周辺住民監視規制法**（重要施設周辺及び国境離島における土地等の利用状況の調査及び規制等に関する法律）強行採決

2021年9月　オーカス（豪英米)が発足するなど「自由で開かれたインド太平洋」陣営による**中国包囲網が拡大**
2021年12月　台湾有事を想定した「日米共同作戦計画」（米海兵隊の「沿線前線基地作戦」をベースとし、琉球弧の約40箇所に臨時の攻撃拠点を置く。琉球弧の線利用を前提

2022年　「防衛力の抜本的強化」を宣言
2022年5月　**経済安保法成立**
2022年10月　アメリカ「国家安全保障戦略」発表。
2022年12月　**安保3文書**（国家安全保障戦略／国家防衛戦略／防衛力整備計画）を改訂。「戦後のわが国の安全保障政策を大きく転換」「国家としての力の発揮は国民の決意から始まる」敵基地攻撃能力、―能力
「5年で433兆円」の大軍拡を開始。

2023年6月　陸上自衛隊「嵯峨駐屯地」建設着工
2023年8月　ヒロシマでG7サミットを開催、被爆地で核兵器の必要性を確認した。

2023年10月29日　大分県日出生台演習場での陸上自衛隊･日米共同訓練（映画：シーン８）
2023年11月13日　（神奈川県川崎市）新百合ヶ丘総合病院での訓練（映画：シーン10）

2024年3月　陸上自衛隊大村竹松駐屯地に水陸機動団第3連対配備
2024年4月　日米首脳会談で自衛隊と米軍による「指揮統制」の連携を強化する方針を打ち出した。「日米同盟が発足して以来（64年ぶり）最も重要なアップグレードになった」（バイデン大統領）
2024年5月　「統合作戦司令部」創設を柱とする改正自衛隊法などが成立
2024年6月19日　**地方自治法改正法**成立
2024年4月　自衛隊統合作戦司令部の年度末創設に向け「防衛省設置法」改定審議中→日米軍相互運用性強化
2024年度内に沖縄県を用避難地域とする住民避難措置計画を策定する計画
2024年10月～11月　自衛隊と米軍共同演習（キーンソード）豪、仏、独などNATOからのオブザーバー参加をロシア抗議
2025年3月　「統合作戦司令部」が240人体制で市ヶ谷に発足する。つまり**❶指揮統制の一体化、❷米軍と自衛隊の事実上の統合**、それ派すなわち、**自衛隊は米軍の一部となって、戦争の最前線で戦うの最前線で戦う**ということ。⑵

政治・社会の動き　⑶

2020年6月　イージスアショア配備断念
2020年8月　安倍首相退陣表明
2020年10月　菅義偉政権発足
2020年12月　第5次アーミテージリポート（**敵基地攻撃能力**の保有などを要求）

2021年1月　国連で核兵器禁止条約発効
2021年7月　安倍前首相暗殺
2021年9月　**重要土地調査法**施行（市民弾圧狙い）
2021年10月　岸田政権発足　衆議院選挙自公勝利

2022年3月　エマニュエル駐日大使着任
2022年5月　**経済安全保障推進法成立**（セキュリティークリアランス）
2022年7月　参議院選挙自公勝利
2022年12月　安保３文書閣議決定⇒軍事費倍増･５年で43兆円、違憲の敵基地攻撃能力保有、日米軍事一体化と中国敵視策を明記

2023年4月　岸田町軍拡予算スタート（5年43兆円）
2023年5月　広島G7サミット（核抑止力を正当化）
＊巡航ミサイル･トマホーク400発の購入契約（射程1600Km）
・ヘリ護衛艦「いずも」「かが」の攻撃空母への改修工事

2024年6月　**地方自治法改正**（国が地方時自体に対し指揮権発動も）
2024年7月　日米外務･防衛の閣僚会議（２＋２）で在日米軍を「統合軍司令部」のカウンターパートとする構想（実質的に自衛隊は米軍指揮下に入ると思われる）
2024年8月　エマニュエル米国駐日大使･G7駐日大使ら長崎原爆犠牲者追悼集会をボイコット

2024年10月　石破政権発足･衆議院選挙予定

沖縄島（辺野古・高江・浦添など）⑶

2019年2月　辺野古移設是非を問う県民投票実施（投票率52.48%、埋め立て反対71.7%反対が7割を超える。岩屋防衛相「沖縄には沖縄の、本土には本土の民主主義がある」と言い投票結果を無視
2019年3月　沖縄県が国交省による埋め立て承認撤回の効力停止の取り消しを求める
2019年10月　（浦添）玉城知事、城間市長、松本市長の３者会談
2019年10月　（浦添）浦添埠頭地区調査検討会議発足

2020年　新型コロナ流行（米軍基地由来の疑い）
2020年4月　沖縄防衛局が地盤改良工事に伴う設計変更申請
2020年7月　（高江）関連道路工事完了
2020年8月　（浦添）国が「南側案」否定／松本市長が「北側案」容認
2020年9月　設計変更申請書に対する意見書17839件

2021年2月　（浦添）松本市長が「移設容認」で再選
2021年3月　（浦添）那覇市管理組合構成団体調整会議で浦添埠頭民港形状案合意
2021年3月　戦争遺骨の残る南部からの土砂採取に反対してガマヤフーの具志堅隆松さんハンスト
2021年5月　（浦添）四者協議（政府、県、那覇市、浦添市）で軍港案について協議

2023年1月21日　（那覇市）**住民避難訓練**（映画：シーン15）
2023年11月15日　（金武町・キャンプ・ハンセン）米海兵隊第12海兵沿岸連隊（MLR）発足（映画：シーン６）
2023年10月20日　（米海軍基地ホワイト・ビーチ）**日米共同訓練　レゾリュート･ドラゴン23**への抵抗（映画シーン７）

2024年3月10日　（うるま市）**陸上自衛隊勝連分屯地　地対艦ミサイル配備運び込み**への抵抗（映画：シーン12）
2024年3月21日　（うるま市）**陸上自衛隊勝連分屯地第7地対艦ミサイル連隊発足**

2024年3月30日　（うるま市）沖縄島・第7地対艦ミサイル連隊発足式典（鬼木防衛副大臣のあいさつ・映画：シーン13）

※この年表の作成に当たっては森の映画社**「ブックレット 琉球弧を戦場にするな」「ドローンの眼2 琉球弧戦争と平和の最前線」**、島じまスタンディング**「東西冷戦後の日米安保年表」**、土田誠さん制作の年表、Wikpedia等を参考に、また引用させていただきました。
※この年表はまだ未完成です。間違いやダブり、不足の項目も多いと思います。どうぞご指摘ください。
追加することをどんどん書き込みながら「琉球弧と日米軍事同盟」について考えを深めていきたいと思います。

資料❻　解説【戦争が近づく琉球弧】

「島嶼防衛」って、島民を守るため？

　米海兵隊の新しい戦略構想を「遠征前進基地作戦（EABO、Expeditionary Advanced Base Operation）」と言います。日米の軍隊が島々を転々と移動して敵軍を攻撃する作戦です。
　ミサイルを装備した海兵隊の小規模部隊が島々に分散し、対艦ミサイルで洋上の中国艦隊に攻撃を加えた後、すぐに撤収するという奇襲攻撃が主な作戦内容です。
　奇襲攻撃は、どこの島から攻撃されるかわからないように島の住民に紛れ込んで素早く攻撃し、移動すると言うことを意味しています。沖縄県には150万人の県民が暮らしています。有事の際、とうてい避難できる人数ではなく、EABOは避難どころか島民を盾にする作戦です。
　沖縄島の米海兵隊基地キャンプ･ハンセンの砲兵部隊を改編して誕生した海兵沿岸連隊（MLR）がこの任務に当たります。現在中国のミサイル開発能力の方が進んでいると言われていて、有事の際、アメリカの空母や爆撃機は、敵のミサイルの射程の外へ避難します。海兵隊の役割は敵の勢力圏内で拠点をつくり、空母が軍事展開できるよう中国艦艇を排除することです。
　MLRに対する自衛隊の部隊が2018年に創設された水陸機動団です。「島嶼防衛」といいますが、しきりに行われている訓練は「離島奪取訓練」です。とられた島を取り返す、すでに島が敵に占領されてからの作戦を訓練しています。

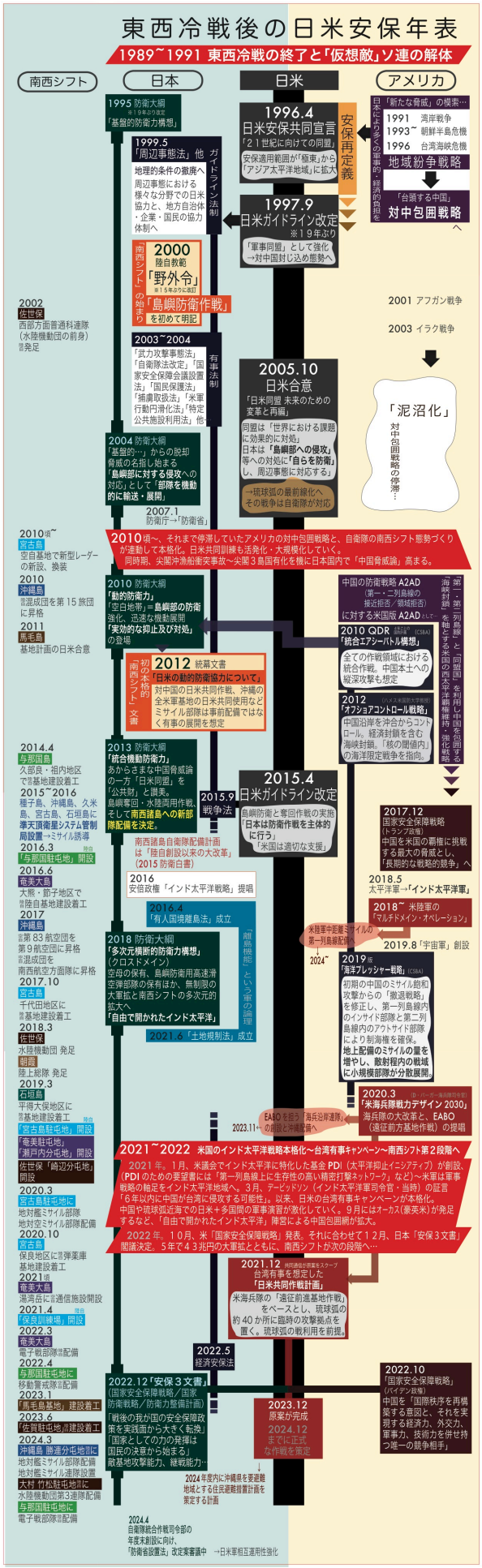
「日米同盟は前例のない高みに達した」

2021年4月　日米共同声明で「台湾」に初めて言及。1970年以来の「一つの中国」論から転換した。
2022年　「防衛力の抜本的強化」を宣言、安保3文書を改訂。「5年で433兆円」の大軍拡を開始。
2023年8月　ヒロシマでG7サミットを開催、被爆地で核兵器の必要性を確認した。
2024年4月　日米首脳会談で自衛隊と米軍による「指揮統制」の連携を強化する方針を打ち出した。「日米同盟が発足して以来（64年ぶり）最も重要なアップグレードになった」（バイデン大統領）
2024年5月　「統合作戦司令部」創設を柱とする改正自衛隊法などが成立
2025年3月　「統合作戦司令部」が240人体制で市ヶ谷に発足する。
つまり**❶指揮統制の一体化**、**❷米軍と自衛隊の事実上の統合**、それはすなわち、**自衛隊は米軍の一部となって、戦争の最前線で戦うの最前線で戦う**ということ。

（以上は、森の映画社「ブックレット　琉球弧を戦場にするな」から転載させていただきました）

資料「東西冷戦後の日米安保年表」

　右の『東西冷戦後の日米安保年表』は、「島じまスタンディング」の方が作成されたものを、許諾を得て使わせていただきました。
8ページから11ページの資料**❺「戦争の準備と琉球弧の基地 」年表**の中でも参考にさせていただいております。
文字が小さくて良く読めないと思いますので
「島じまスタンディング」のブログ
https://shimajimastanding.blogspot.com/
を参照してください。



資料❼　琉球弧のいま、日米軍事同盟について考える映画・映像（１）

沖縄列島　1969年／90分／東陽一監督
頭上をベトナムと沖縄を結ぶ軍用機が去来。本土からの観光客を乗せて走る観光バスの向うにはＢ52の黒い尾翼が屹立している。バスのガイド嬢が、突然「沖縄を返せ」を歌いはじめた。日常的に飛ぶ爆撃機は、ベトナムと沖縄列島を連結させている。伊江島では、基地の中に小屋を建て、土地を奪い返えすための闘争が続いている。B25が、石垣島の遥か上空を通過する。宮古や石垣の上を日常的飛ぶ爆撃機は、ベトナムと沖縄列島を連結させいる。

One Shot One Kill　2011年／68分／藤本幸久監督
米海兵隊・ブートキャンプ（新兵訓練所）の12 週間の訓練に密着した衝撃作。人は人を殺すようには出来ていない。では、どうすれば、普通の若者が戦場で人を殺せるようになるのか。最初に教えられることは「口を閉じよ、疑問を発するな」ということ。髪を剃られ、 制服に着替え、「私」という言葉を禁じられ、個性の一切と思考を放棄させられる。そして、卒業まで何万回も同じ事を繰り返す反復訓練。一言で言えば、その教育は、1 洗脳と2 肉体の記憶づくりである。

ラブ沖縄@辺野古･高江･普天間　2012年／113分／藤本幸久監督・影山あさ子監督
普天間基地代替基地建設反対し、建設を阻止し続けいる名護市辺野古の人々や、ヘリパッド建設を止め続けいる高江の住民たち、そし2012年9月、新型垂直離着陸機オスプレイ配備反対する人々の行動、2004年から12年までの8年間を記録した。**★第1回憲法を考えるちいさな映画の会で上映**

ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を　2012年／110分／及川善弘監督
悲惨な沖縄戦を生き延びた沖縄県民は、 今度こそ戦争のない平和な時代をと一生懸命働いた。 その矢先の1959年6月30日、米軍のジェット戦闘機が石川市へ墜落し、炎上しながら宮森小学校に激突した。 住民6名、学童11名の命を一瞬に奪う大惨事となった。 遺族をはじめ県民の嘆き悲しみは尽きることはなく今日まで続いている。この映画は日本人全体が抱える基地・外交問題などに大きな疑問を投げかける社会派ドラマである。

標的の村　2013年／91分／三上智恵監督
日本にあるアメリカ軍基地、専用施設の74%が密集する沖縄。5年前、新型輸送機「オスプレイ」着陸帯建設に反対し座り込んだ東村、高江の住民を国は「通行妨害」で訴えた。2012年9月29日、オスプレイ強行配備前夜、台風17号の暴風雨の中、人々はアメリカ軍普天間基地ゲートに座り込み、22時間にわたってこれを完全封鎖した。全国ニュースからほぼ黙殺された前代未聞の出来事の一部始終を地元テレビ局、琉球朝日放送の報道クルーたちが記録していた。

泥の花　2014年／90分／興石正監督
辺野古、キャンプ・シュワブでの米軍新基地建設に向けた動きが加速化してきている。はるか昔から人々のくらしを支えてきた母なる海を守る住民の闘いは、武器をもたない生身の体一つ一つを持ち寄って、ゲート前でのテント村での座り込み、海上でのカヌー抗議活動、それが名護市民のくらしの中で日々続いている。沖縄の自己決定権、生存権をかけた闘いは、 戦争ができる国づくりが進んでいる日本において平和憲法を守り育てていく場でもあるのだ。

沖縄　うりずんの雨（改訂版）　2014年／148分／ジャン･ユンカーマン監督
太平洋戦争で多大な犠牲を払い、戦後70年を経た現在も平和を求めて不屈の戦いを続ける沖縄の人々にスポットを当てたドキュメンタリー。戦場で向き合った元アメリカ兵と元日本兵、沖縄住民の証言を中心に、アメリカの国立公文書館に残る資料映像を交え、4人に1人の住民が命を落とした沖縄戦の真実に迫る。現在に至るまで米軍基地をめぐる負担を日米両国から強いられてきた沖縄の差別と抑圧の歴史をたどり、住民たちが抱える怒りと失望の根源を探っていく。 **★憲法映画祭2023で上映**

圧殺の海―沖縄･辺野古　2015年／109分／藤本幸久監督・影山あさ子監督
この海は、誰のものなのか。2014年7 月1日、辺野古の新基地建設が着工された。沖 縄県民は何度NO の声をあげたことだろう。しかし、機動隊や海上保安庁を使い、反対する人たちを力ずくで抑え込みながら、日本政府は工事をすすめる。連日、拘束、排除し続けられる幾人ものカヌー隊員。機動隊は報道機関も排除し、怪我人を出すほどに猛り狂う。安倍政権が目指す「戦争する国」づくりの最前線、辺野古。周到に準備された「無関心の壁」に一穴を穿ちたい。私たちの未来の行方が、封じられ、圧殺される前に。

戦場ぬ止み　2015年／129分／三上智恵監督
沖縄県のアメリカ軍普天間基地の移設候補地となっている名護市辺野古で、反対派の人々が民意を訴える姿を追ったドキュメンタリー。埋め立て予定地域で抗議する人々と沖縄防衛局や海上保安庁の大船団、県知事選での保革を超えた島ぐるみの闘争など、沖縄の緊迫した様子が捉えられる。苦難の歴史を抱え、国と対立しながらも、圧力に屈しない沖縄の人たちの姿も映し出される。

ザ･思いやり　2015年／ 88分／リラン･バクレー監督
日本の経済が困難な状況の中、日本人はなぜここまでアメリカ軍を思いやらなければならないのでしょうか? 「思いやり予算」は日本人が自ら働いて支払っている税金からアメリカ軍に34年間で6兆円、年間、米兵ひとりあたり 1300 万円と膨大な額がアメリカ軍人のぜいたくな生活を支援するために使われている。米軍への「思いやり予算」の不条理さと矛盾を提示し,さまざまな視点から日本国民に問いを投げかけていく。 **★第26回憲法を考える映画の会で上映**

高江　森は泣いている　2016年／64分／藤本幸久監督・影山あさ子監督
東村・高江のある沖縄本島北部、やんばるの森は自然の宝庫。その森に米軍の北部訓練場 がある。集落を囲むように6箇所のヘリパッド建設が 2007年に始まったが、住民たちは座り込みで抵抗。2016年7月10日機動隊に守られて、工事用資材の搬入が始まった。7月22日早朝から、警察・機動隊が県道を10 時間にわたり封鎖。機動隊の壁を作り、市民と車両を力ずくで排除、抗議行動の拠点となっていたテントを破壊した。高江は今戒厳令 状態だ。高江で、反対する市民の姿などを記録したドキュメンタリー。

いのちの海　辺野古大浦湾　2017年／71分／謝名元慶福監督
待望の辺野古・大浦湾と住民のドキュメンタリー映画。世界でも有数な、息をのむような 美しく貴重な生き物たち。過酷な沖縄戦、戦後の米占領下での理不尽な土地取り上げ、米兵の犯罪など強いられた住民。おじい、おばあたちの思いも胸に新基地建設に反対する住民のたたかいの歴史と今―。沖縄県名護市辺野古大浦湾の豊かな自然と人々の生活を脅かすオスプ レイの新基地工事。辺野古新基地工事は大浦湾の景観や人々の生活を壊し脅かしている。沖縄の基地反対の闘いの歴史と今が鮮やかにわかる映画。

ZAN～ジュゴンが姿を見せるとき　2017年／73分／リック･グレハン監督
沖縄に生息する絶滅危惧種のジュゴンを見ようと訪れた先は辺野古。そこで目の当たりにしたのは、圧倒的な自然の美しさと、それを脅かす米軍基地建設だった。ジュゴンとはどのような生き物なのか。辺野古・大浦湾にはどのような生物が暮らしているのか。基地建設について、自然保護団体、研究者、抗議活動に参加する市民、地元地区の住民は何を思っているのか。そして、私たちは何を守らなくてはいけないのか。沖縄の豊かな自然の中での様々な発見、体験を通してジュゴンが暮らすこの海と共に生きていくことの大切さを考えるドキュメンタリー。

辺野古ゲート前の人びと　2017年／98分／藤本幸久監督・影山あさ子監督
辺野古ゲート前は、いろんな人がやってくる。沖縄戦で肉親を失った人、間近で米軍機の 墜落事故を体感した人、基地労働者として働いてきた人...集会では、基地との同居を強いられる沖縄県民の痛みが、肉声で語られる。県警機動隊員にも、「オジィ、オバァが生き残ったから、あなたたちがいるんだよ」と語りかける。「基地ができたら戦争が来る」ことを知る人たちの共通する願いは、「子どもや孫に、同じ体験をさせたくない」ということ。次の排除が始まるまでの間、三線や替え歌、踊りが厳しい時間の中に、心安らぐひと時を生み出す。

0KINAWA1965　2017年／95分／都鳥伸也監督
1965 年、米軍占領下の沖縄。祖国復帰行進のさなか、報道写真家嬉野京子さんによって、1 枚の写真が撮られた。幼い少女が無残にも米軍トラックに轢殺された当時の沖縄の縮図とも言える写真だ。アジア・太平洋戦争末期、凄惨な地上戦で多くの犠牲を払った沖縄には、戦後も安寧が訪れることはなかった。県民の土地は武力によって米軍に強奪され、そこに戦争のための基地 が作られた。駐留米兵の起こした事件は、さらに人々を傷つけた。沖縄の住民達は立ち上がり、ついに本土復帰が果たされた。しかし“基地のない平和な沖縄に”という願いは未だ叶っていない。 **★第46回憲法を考える映画の会で上映**

資料❼　琉球弧のいま、日米軍事同盟について考える映画・映像（２）

ザ･思いやりパート2 希望と行動編　2017年／90分／リラン･バクレー
在日米軍駐留経費の一部を日本側が負担するという「思いやり予算」について、在日アメリカ人のリラン・バクレーが問題提起するドキュメンタリー「ザ・思いやり」の第2弾。 20年以上日本で暮らしているバクレーさんが、アメリカ人としての視点から、「世界の戦場へ繰り出している在日米軍がそこで何をしているのか」、「沖縄に希望はあるのか」など、在日米軍関連のさまざまなシリアスな問題について「思いやり」をもって生きる人々の声を聞き、 ときにコミカルに切り込んでいく。 **★第51回憲法を考える映画の会で上映**

標的の島 風かたか　2017年／119分／三上智恵監督
「標的の島」とは、沖縄のことではない。あなたが暮らす日本列島のことだ。2016年6月、米軍属女性暴行殺人事件の被害者追悼の県民大会で稲嶺進名護市長は言った。「我々は、また命を救う“風かたか”になれなかった」。「風 (かじ) かたか」とは風よけ、防波堤のことだ。なぜ今、先島諸島を軍事要塞化するのか? それは日本列島と南西諸島を防波堤として中国を軍事的に封じ込めるアメリカの戦略の一環であり、日本を守るためではない。基地があれば標的になる、軍隊は市民の命を守らない――沖縄戦で歴史が証明したことだ。だからこそ、この抵抗は止まない。

宮古島からのSOS　2018年／60分／藤本幸久監督・影山あさ子監督
那覇から 300 キロ、サンゴ礁の海に浮かぶ宮古島。集落ごとに御嶽(うたき)と呼ばれる 聖地がありその数は 800を超える。宮古島は、信仰の島だ。しかし今、ここに造られようとしているのは、陸上自衛隊ミサイル基地だ。木々が切り倒され、植物は剥がされてゆく。基地建設が着工されてから、工事現場の入り口に立ち、毎日、抗議を続ける人びとがいる。工事現場の中にある御嶽が心配だ。ある日、ゲートを越えて中に入ると、御嶽の井戸はすっかり破壊されていた。鬱蒼とした御嶽の森は切り倒され、わずか 4000m²のみを残すだけだった。**★第51回憲法を考える映画の会で上映**

沖縄から叫ぶ 戦争の時代　2018年／61分／湯本雅典監督
沖縄県辺野古、宮古島、石垣島、与那国島そして鹿児島県奄美大島に入り、私がいままで見たことのない光景を見たとき、このタイトルしかないと感じました。巨大な基地が、今作られ、これからも作られようとしている。米軍と自衛隊の基地です。安倍首相は憲法を変え、9条に「自衛隊」を明記すると言っている。その行きつくところはここなのだと実感しました。「政治にかかわってください」という気持ちを最大限こめた映画になっています。おそらく、日本全土が平和を脅かされる暗雲に包まれつつあります。その緊急性を、この映画で感じてください。 **★第51回憲法を考える映画の会で上映**

水どぅ宝　2018年／106分／制作：沖縄テレビ
2016 年、沖縄県は 45 万人に供給される水道水に有機フッ素化合物、PFAS(ピーファス) が含まれていたと発表。それは人体への悪影響が指摘され、国際条約で使用が原則禁止とされた化学物質だった。2021年 8 月―米軍は日米で協議中にも関わらず、汚染物質を含む汚染水を公共下水道へと放出。理由は「従来の処理では、財政的な負担が大きい為」というものだっ た。PFASは、胎児や子どもの成長に悪影響を与えるとされる物質。母親たちは国に直接抗議した。しかし、その後、日本政府がとった対応は母親たちが到底納得できるものではなかった。

ドローンの眼 琉球弧の軍事基地　2019年／28分＋40分／影山あさ子監督
第一部「改正ドローン規制法と辺野古」。 2018年から、ドローンを使って辺野古新基地建設現場で工事の監視を続けてきた。そこで明らかになった防衛局の工事の違法と不正を土 木技術者の奥間政則さんの解説とともに伝える。2019年6月13日に施行された「改正ドローン規制法」は国民の知る権利を侵害する現代の「要塞地帯法」。第二部「ドローンで見る沖縄の基地」。琉球弧の島々で建設がすすむ自衛隊基地。沖縄県民が同居を強いられてきた 沖縄島の巨大な基地群を改正ドローン規制法による飛行禁止区域指定の前に全力で撮影した。

私たちが生まれた島 OKINAWA2018 2019年／141分／都鳥伸也監督
2019 年、沖縄の人々が基地建設に明確に「NO」を突き付けた「県民投票」。その原動力となった元山仁士郎さんの活動、村議会議員に立候補した3児の母・城間真弓さんの奮闘、伊江島で育った高校生の中川友希さんが沖縄の過去と向き合おうとする姿を通し、沖縄の若者たちが自分たちの視点で基地問題について考え、行動する姿を追った。その軌跡は「今の沖縄」と「これからの沖縄」を知る手がかりになるはずだ。戦後から脈々と基地問題を受け継いできた大人たちから、その想いを自分たちなりの感性で継承しようとする若者たちの記録である。 **★憲法映画祭2022で上映**

沖縄と本土　一緒に戦う　2020年／60分／湯本雅典監督
南西諸島で急速に進められている自衛隊の基地建設。2019年には沖縄県宮古島、鹿児島県奄美大島で同時に陸上自衛隊ミサイル基地が開所。基地のない石垣島でもミサイル基地建設が始まった。工事開始時期はカンムリワシの営巣時期、それでも防衛省は工事に踏み切っ た。沖縄では、声をあげ続ける沖縄県民の多くが、米軍基地の拡張を望んでいない。その声は一方的に無視され続けてきた。であれば、これからどうやって住民は生きて行けばいいのか。その難問に答えを出すかのように動き始めたのが「辺野古」県民投票運動である。

ちむぐりさ　菜の花の沖縄日記　2020年／106分／平良いずみ監督
石川県から沖縄のフリースクールに通うためにやって来た 15 歳の少女の目を通し、沖縄の「リアル」を捉えたドキュメンタリー。沖縄の言葉ウチナーグチで「胸を痛める」という意味を持つ「肝(ちむ)ぐりさ」。人の痛みを自分のものとして胸を痛め、つらい思いをして いる人と一緒に悲しむ。そんな沖縄に、ひとりの少女がやって来る。石川県から那覇市の学 校にやって来たその少女、坂本菜の花さんは、この島ではずっと「戦争」が続いていることを肌で感じ取っていく。第 38 回「地方の時代」映像祭グランプリ受賞。 **★憲法映画祭2022で上映**

サンマデモクラシー　2021年／99分／山里孫存監督
米軍占領統治下にあった沖縄で、サンマの関税に端を発した訴訟が民主主義をめぐる闘いに発展していった歴史をひも解く。1963年、米軍の占領統治下に置かれていた沖縄。祖国復帰を願う沖縄の人々が日本の味として食べていたサンマに関税が掛かっているのはおかしいと、魚屋の女将、玉城ウシが政府を相手に裁判を起こす。彼女が起こした「サンマ裁判」 のさざ波は、いつしか統治者アメリカを追い詰める、民主主義をめぐる闘いとなっていく。

島がミサイル基地になるのか 若きハルサーたちの唄　2021年／60分／湯本雅典監督
石垣島では、2019年3月から、陸上自衛隊ミサイル基地の建設が始まっています。しかし、この問題、島の人々の十分な合意が得られていません。そこに疑問を持った28歳の 若者たちが2018年暮れに始めたのが住民投票運動。島の有権者の3分の1以上の支持が集まった。しかし、石垣市はこの要請を拒否しました。若者たちが大事にしたのは,「話し合って決めましょう」ということ。若者たちは、裁判にも打って出ました。しかし裁判所は地裁、高裁、最高裁と請求を却下、棄却した。それでも、若者たちは運動を絶やさず続けています。**★憲法映画祭2022で上映**

シンちむどんどん　2023年／98分／ダースレーダー監督・プチ鹿島監督
ラッパーのダースレイダーと時事芸人のプチ鹿島が選挙戦を突撃取材したシリーズ第2弾、 本土復帰 50 年の節目となった 2022 年 9 月の沖縄県知事選と、その争点となった基地問 題に切り込んだ。2 人は基地問題について話を聞くため、座り込み抗議が約 3000 日にわたっ て続く辺野古の現場へと足を運ぶ。選挙の翌月、ひろゆき氏による「座り込み抗議」への冷 笑ツイート騒動が起こる。見過ごせないと考え、二人は再び沖縄へ。そこで目にしたものとは。 いつもは陽気なラッパーと芸人が言葉を失う予想外のラスト。

戦雲 （いくさふむ）　2024年／132分／三上智恵監督
日米両政府の主導のもと、自衛隊ミサイル部隊の配備や弾薬庫の大増設、全島民避難計画など、急速な戦力配備が進められている南西諸島。2022年には台湾有事を想定した日米共同軍事演習「キーン・ソード 23」と安保三文書の内容から、九州から南西諸島を主戦場とする防衛計画が露わになった。2015 年から 8 年間にわたり沖縄本島、与那国島、宮古島、石垣島、奄美大島などをめぐって取材を続け、迫り来る戦争の脅威に警鐘を鳴らすとともに、過酷な歴史と豊かな自然に育まれた島の人々のかけがえのない暮らしや祭りを鮮やかに映し出す。

資料❼　琉球弧のいま、日米軍事同盟について考える映画・映像（３）

ミサイル基地がやってきた 島で生きる　2024年／82分／湯本雅典監督
2023年3月、沖縄県石垣島では、陸上自衛隊ミサイル基地が開設した。住民投票を求め る石垣市内の有権者による自衛隊配備の賛否を問う住民投票条例制定請求署名は有権者の3 分の1以上にあたる14,263 筆が集まった。しかし、石垣市は未だに住民投票を実施していない。住民投票を求める若者たち、農民兼市議会議員、漁師など基地に対する人々の想いを丹念につむぐ。 **★憲法映画祭 2024 で上映**

骨を掘る男　2024年／115分／奥間勝也監督
沖縄戦の戦没者の遺骨を40年以上にわたり収集し続けてきた具志堅隆松。これまでに、およそ400柱を探し出した。彼は自らを“ガマフヤー”と呼ぶ。ガマは沖縄の自然壕、フヤーとは掘る人という意味だ。砕けて散乱した小さな骨、茶碗のひとかけら、手榴弾の破片、火炎放射の跡…。拾い集めた断片から、兵隊か民間人か、どのような最期をとげたか推察し、想いを馳せ、弔う。掘ってみるまで、そこに本当に骨が埋まっているかどうかはわからない――それでも掘りつづける行為を具志堅は、観念的な慰霊ではなく「行動的慰霊」だと言う。沖縄本島には激戦地だった南部を中心に、今も3000柱近くの遺骨が眠っているとされる。沖縄の人びとや旧日本軍兵士のものだけではない。米軍兵士、朝鮮半島や台湾出身者たちの骨を含んだ島の土砂が辺野古新基地のための埋め立て工事に使われようとしている。

勝ちゃん 沖縄の戦後　2024年／98分／影山あさ子監督・藤本幸久監督
沖縄本島北部の国頭村で「一人追い込み漁」を編みだし、海に潜ってグルクン（タカサゴ）の群れをたった1人で網に追いこむ、勝ちゃんこと山城善勝さん。沖縄戦最初の大規模空襲「10・10空襲」の6日前である1944年10月4日に生まれた勝ちゃんは、県民の4人に1人が亡くなった沖縄戦を0歳で生き延びた。戦後、焼け野原となった沖縄では、土地も畑も米軍基地にとられていたため、庶民が食べるものは海のものしかなく、それが漁師・勝ちゃんの原点となった。その後、沖縄では6歳の少女が米兵に殺された由美子ちゃん事件、宮森小学校米軍機墜落事故、コザ暴動、辺野古新基地建設などさまざまな事件や事故が起きたが、それらはすべて勝ちゃん自身の体験でもあった。

資料❽　第77回憲法を考える映画の会　報告

第77回憲法を考える映画の会は、2024年8月11日、文京区民センターで『生きていてよかった』『千羽鶴』の映画を見て、その感想を話し合いました。

以下はその時に出た話から一部を紹介します。（要約で失礼します）

■『生きていてよかった』に出ていた渡辺さんに長崎で被爆体験をお聞きしたことがある。折り鶴の塔のことは初めて知った。
こう言う映画で残しておくことは大切だ。長崎では被爆者の健康手帳の交付が十分でない。その署名をお願いしたい。（K.）
■原爆の悲惨さを伝える映画に関心があったが、両方ともその後の話でつまらなかった。禎子さんについては、この後にできた『千羽づる』の方が10倍泣けた。塔を作る運動の記録が目的だからか。（U.）
■1958年に被爆した長崎のシスターに話がを聞いたが、1945年の10月でも街の中に遺体があった。身に付けているものの端切れからでも、誰であるかわかるように残していると言うことだった。(S.S.)
■もうひとつの『千羽づる』は見ていたが、両方を見て良かった。この映画に出ている病院で禎子さんと一緒だった雨宮さんという方はご自分は原爆症ではなかったが、高齢になるまで反原爆の運動を続けられて、イラク戦争の時も劣化ウラン弾廃絶の運動をされた方だった。
■児童･生徒たちがどのように「折り鶴の塔」をつくったか、その活動は豊田清史著『千羽鶴　原爆の子の像の記録』と言う本に書かれている。禎子さんのお兄さんが書かれた本も出ている。（H.K.）

資料❾　第77回憲法を考える映画の会『生きていてよかった』『千羽鶴』（2024/8/11）参加者感想から

【参加票に寄せられた感想など】

●戦争はいつもよわいものが泣きます。戦争はダメ。子供たちにまっすぐに伝えたい。どこかで間違った話しにすり変えられていってしまうのはどうしてか？と、思います。話しのすり変えがあるのではとも思います。（T.N.）
●被爆者の方たちの大変な様子を映像で残し、その心の変化を映したものが映画として残されたことに感動する。核爆弾を世界からなくすために戦後伝え続けてこられた被爆者の方たちの思い、今を生きる私達は伝えていかなくてはならないと強く思いました。
映画会の運営いつもありがとうございます。(A.M.)
●『黒い雨』は、前に見ました。今回の映像は見てないので、見て良かったです。『人間をかえせ』を見たいです。『アトミック・カフェ』も見たいです。(M.E.)
●いつもいい映画を上映してくださり、ありがとうございます。最近難聴がひどくなり、映画中の言葉もききとりにくくなりました。古い映画では、その時代、その時代のメッセージがこもっています。それをっくみとっていろいろな映画を見せてください。(K.K.)
●日本会ギが安倍氏をもちあげて、「日本改革」を目指したときに掲げたのは「教育改革」でした。そして第１次安倍内閣は「教育改革」を断行しました。今ロシアでは軍事教育がはじまっています。アフリカや中東紛争地では洗脳しやすい少年兵が重宝されています。憲法が等しく教育を保障している肝はやはりそこにあるのだと感じました。(H.K.)
●祈りのこめられた良い映画でした。「平和」について、若い人や子どもたちにも、もっと考えてもらいたいです。(H.S.)
●『生きていてよかった』原爆の被害を受け生きて行く人々がいたと言う事が、同時間に私も生きていたのに、映画を見た今、胸に迫ります。今、ガザにも、この姿がある事を思います。『千羽鶴』は若い時観たらつまらなく思ったと思う。しかし、解説を読み、時代背景を思い、今の状況を考えるとき、みて、よかったです。歴史として、興味深いです。(K.Y.)
●被爆の苦しみが具体的に、実例からよく理解できました。こういう映画は全世界で上映してほしいと思います。
全然古くないです。投下当初の街の風景もよくわかりました。何回も見たいと思います。ありがとうございました。『千羽鶴』、とても良かったです。生徒がふきそうじをしている場面なつかしく思いました。また見たいです。
ありがとうございました。(M.K.)
●貞子さんの像の建立課程がわかってよかった。(M.)
●佐々木禎子さんについて、おぼろげな情報は得ていましたが、ほんとうに断片的なものでした。ドキュメント風の劇映画から学ぶものが多々ありました。先の大戦について知らない事、まだまだあるのですね。学習の必要性を感じます。（映画そのものの悲しさもありますが、禎子さんの父親役が島田屯さんだった事に驚きました。舞台俳優だった方と記憶しています。初期のテレビドラマで「バス通り裏」にも出演されていました。その後生活苦から親子心中された事を思い出しました。子ども心にもショックでした。禎子さんの冥福を祈るとともに、島田さんの冥福を祈ります。（無記名）
●NHKの虎に翼でも原爆裁判をやるのでこの裁判がテーマの映画「人間であるために」も上映し、原爆使用が正当か否か（アメリカの言う１００万人救ったから正しい行為だ）について議論してほしい。（無記名）

第79回 憲法を考える映画の会

と　き　（2025年1月を予定）
ところ：**文京区民センター（予定）**
（地下鉄春日駅2分・後楽園駅5分）≈

＊次回第79回憲法を考える映画の会は、12月を予定していましたが、会場（文京区民センター）の抽選に外れてしまいましたので、延期して2025年1月に改めて予定したいと思います。
＊1月の抽選は、11月1日に結果が決まりますので、決まりましたらプログラムともども、またご案内します。

憲法映画祭2024

と　き：2025年4月29日（休･火）
ところ：武蔵野公会堂ホール（吉祥寺駅南口2分）

第9回目になる憲法映画祭の会場が決まりました。
来年の4月29日午前中から夜まで、今年も1日中、憲法に関わる映画を見て考えます。詳しいプログラムはこれから考えを出し合って創って行きます。ご意見やご希望などありましたらお寄せください。

第10回 むのたけじ反戦塾

と　き：**2024年11月16日（土）**
13時30分～17時（13時開場）
ところ：**文京区民センター ３C会議室**

2022年12月から始めた学習会（むのたけじ反戦塾）も11月には10回目になります。

この「むのたけじ反戦塾」は、2015年5月の有明憲法集会でのむのたけじさんの反戦の演説から始まっています。
むのさんの晩年の反戦の訴えを記した著書、むのさんの講演の映像を一緒に見て「戦争はいらぬ 戦争をやらぬ世へ」を実現するためにどうしたら良いか、「たいまつ」の精神で、ひとりひとりが思うことを出し合い、具体的に方法を考え、意識を深めています。
これまで話し合いの中から、とくに次回は今回の映画会で集めた資料なども活かして、戦争をさせないための国際関係、人々の反戦の意識について考えていきます。
2～3ヶ月に1度のペースで、少人数で話し合います。

＊問合せ先：090−4599−5314 武野
〒338−0006　さいたま市中央区八王子4-7-10-201
E-mail:dmuno@jcom.home.ne.jp

上映会案内

10月12日（土）～11月30日（土）「第9回ねりま沖縄映画祭」　●10月27日（日）・11月2日（土）ともに18時～『**ファニーズ**』（練馬区役所＝練馬駅）●11月16日（土）15時半「真喜屋力監督 Special Movies」18時半『**劇場が終わるとき**』（練馬区役所）●11月29日（金）14時『**GAMA 月桃の花**』（練馬区立生涯学習センター＝練馬駅）●11月30日（土）11時『**GAMA 月桃の花**』（武蔵大学江古田キャンパス＝江古田駅）
10月27日（日）くにたち映画祭　10時・14時・17時半『**映画　○月○日、区長になる女。**』（さくらホール＝国立駅）

憲法を考える映画の会の活動案内

〇憲法を考える映画の会　上映会
・2ヶ月に1回、主に文京区民センター（地下鉄後楽園駅・春日駅）で上映会と映画の後、その映画について話す短い話合い（トークシェア）の時間をプログラムにしています。
・上映作品の背景を知って、理解を深めるために毎回「手元資料」を制作して会場で配布しています。

〇憲法映画祭
・毎年、憲法記念日の前の休みの日（土日休日）、主に武蔵野公会堂（吉祥寺駅）で朝から夜まで、少し規模を大きくしての映画祭を行います。

〇憲法を考える映画のリスト

・自分たちが上映会をした映画を中心に、できるだけあちこちで上映会が活発に出来るよう映画のリストを作りました。
・2024年版は、220の新旧の作品の上映料や問合せ先をリストにして掲載しています。
・ご希望の方は、この手元資料表紙の「憲法を考える映画の会」まで、ご住所をメールまたは郵送でお知らせください。上映会の会場でも販売しています。
＊1部500円
（＋郵送の場合送料250円）

〇ホームページ「憲法を考える映画」
・主に憲法を考える映画の会関連の上映会、催しなどの紹介をしています。http://kenpou-eiga.com/
・映画会の「手元資料」や案内チラシなどのpdfも、この上映作品ごとのページからダウンロードできます。

〇Facebook「憲法を考える映画の会」
・上映会の案内を中心に、各地の憲法に関連するような講演会や催し、学習会などを毎日更新してご案内しています。

〇法学館憲法研究所ホームページ「シネマde憲法」
・広い意味で憲法に関連した新旧の映画の紹介を毎週お送りしています。

「映画の会」案内郵送費 カンパのお願い

「憲法を考える映画の会」の案内を郵送でご希望の方に、郵送費のカンパをお願いしております。
新たに郵送での案内を希望する方は、上映会の「参加票」にその旨、お書きください。
または、このチラシの表面の連絡先にメール、郵便、電話などでお知らせください。
郵送費のカンパは「お気持ち」の額を、映画上映会の時に「受付」のカンパ箱にお入れください。
また、郵送で（封書に1000円札1枚を入れて）送っていただくか、110円切手を10枚程度を送っていただいても結構です。
何とぞよろしくお願いします。
郵送費は今年の10月1日から110円に値上げになります。「憲法を考える映画の会」は、2ヶ月に1回の目安で年間計６回の上映会を予定していますが。その案内に、1回あたりの郵送経費（封筒、宛名シール、送り状コピー代などで150円経費がかかってしまいます。
メールでの上映会案内のご希望は、これまで通り、上映会の「参加票」に書き入れるか、または憲法を考える映画の会あてメールでお知らせください。(手元資料表紙参照)